

世界のひとふれあいタイム



4月18日はアフガニスタンの話で二人の若いゲストを招きました。一人はNGOペシャワール会

の元現地ワーカー・山口敦史さん。もう1人は八王子在住のアフガニスタン人の父を持つポバルダウドさん。

山口さんは学生の時に、パキスタンのペシャワールを訪れ、アフガン難民が見知らぬ山口さんにわずかな食料を分けてくれたことがアフガニスタンで働くきっかけとなりました。



山口敦史さん

1日に5回の祈り(焼き芋屋の掛け声に似ている)のこと。様々な機能をもった独特の衣装や女性のブカ(ほとんど頭からかぶる衣装)を見せてくれ、彼らの暮らしかた、食べ過ぎないような姿勢で食事をするなど、生活の特徴などを実演しながら解説。様々な文化の違いの中で、農業、井戸掘り、灌漑支援をしてきました。言葉のわからない山口さんに優しくしてくれた耳の不自由な男性、ラマダンの経験からもわかるように水がいかに大切なものを身体で体験。医療中心のNGOであるのに、灌漑支援をしているのは感染症の原因が水不足であること。農業に必要な水をまず引くことが大事であることを語ってくれました。

多くの外国の支援もあるが「ばらまき」や米軍のためになっている支援もあるなか、山口さんたちは代表の中村哲氏の教えの元「現地の人と汗を流せ」「現地の人の望む支援を」と常に現地のみならず一緒に活動してきました。今では何十万人もが食べていけるだけの農地が確保でき、美味しいさつまいもができるだけでなく、お茶や、日本にはもうなくなった除虫菊の栽培にも成功して白い菊の花が咲き乱れています。山口さんはもともと農業が専門で、食べ物の大切さ、米の一粒から3,000もの米粒ができる等、私たちが日ごろ、忘れがちな水や食べ物について何度も深く考えさせてくれました。2008年ペシャワール会の伊藤和也さんが「タリバン」に誘拐され殺された時、山口さんは日本で、彼と交代で現地に赴くところだったそうです。



ポバルダウドさん

次に、ポバルダウドさんが2年前にアフガニスタンを訪れた時の印象で、日本が支援をしている事が分かる日の丸があらこちらに見られたこと。父親から聞いた1974年前まではもっと自由があり、緑ももっと豊かにあったと報告。アフガニスタンには民族も様々、考え方もいろいろですと語りました。

報告:ふれあいタイム実行委員長 遠藤良子

同時開催の
写真展



今回のふれあいタイムの様子は、八王子テレメディアで取材、放映されました。

理事会での決定事項をご連絡

理事会で審議決定した事項をご報告いたします。

○ 事業執行のための各委員会から 21年度の事業報告と次年度の事業計画の説明があり、各委員会の事業をそれぞれ継続することが、承認された。

(2月、3月)

○ 団体会員として「日本中国友好の八王子で日本語を学習する会」の入会を承認した。

(3月)

○ 委員会運営の基本的な事項を定めた「委員会規程」を承認した。

(3月)

○ 次期役員を選任のため、「役員候補者推薦委員会」、「選挙管理委員会」の設置と「役員選任規程」が承認された。

(3月)

○ 「留学生八王子ふるさとプログラム」の参加ファミリーに、会員として入会、活動してもらうこととした。(3月)

<八王子市からのお知らせ>

外国人のお子さんがある保護者さまへ

- ◆ 日本では、満6歳から15歳までが義務教育期間です。
- ◆ 満6歳を過ぎた最初の4月から小学校に入学することができ、6年間の教育を受けます。小学校を卒業すると中学校に入学することができ、3年間の教育を受けます。
- ◆ 公立小中学校は、外国人の方も、申請すれば就学できます。就学は随時受け付けておりますので、詳しくは教育委員会までお問い合わせください。

八王子市教育委員会学事課

(Tel :620-7339、FAX:627-8811)へ

◇ 中学卒業までのお子さんの保護者に月13,000円の【子ども手当】が支給されます。詳細は下記のホームページでご確認ください。

URL:<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/languages/023326.html>

～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*～*

ヘルプカード

いざという時あなたの命を救う外国人向け緊急時ポケットマニュアル



- 110番、119番の使い方
- 外国語に対応できる医療機関の案内
- シチュエーション別(地震、事故・盗難、風水害、火事、急病、怪我等) 身を守るための対処方法
- 日本人に援助を求める際の会話集
- 外国人相談窓口の案内
- 災害時伝言ダイヤルの使い方
- 自身のプロフィール
- 名前、国籍、血液型などを記入し、緊急時に活用

協会窓口にあります